

安全データシート

作成日:2023年8月2日

1. 製品及び会社情報

化学品の名称  
推奨用途  
会社名  
住所  
電話番号

ニクロム酸ナトリウム二水和物  
試験研究用  
米山薬品工業株式会社  
大阪市中央区道修町2丁目3番11号  
(06)6231-3555(大阪・本社)  
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)  
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)  
CB1856

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類  
健康に対する有害性

急性毒性(経口):区分3  
急性毒性(経皮):区分3  
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト):区分1  
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:区分1  
眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性:区分1  
呼吸器感作性:区分1B  
皮膚感作性:区分1A  
生殖細胞変異原性:区分1B  
発がん性:区分1A  
生殖毒性:区分1B  
特定標的臓器毒性:区分1(呼吸器/心血管系/腎臓/肝臓)  
(単回ばく露)  
特定標的臓器毒性:区分1(呼吸器/血液系、肝臓)  
(反復ばく露) 区分2(腎臓)  
水生環境有害性 短期(急性):区分1  
水生環境有害性 長期(慢性):区分1

環境に対する有害性

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険  
飲み込むと有毒  
皮膚に接触すると有毒  
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
重篤な眼の損傷  
吸入すると生命に危険  
吸入するとアレルギー、ぜん息又は呼吸困難を起こすおそれ  
遺伝性疾患のおそれ  
発がんのおそれ  
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
呼吸器/心血管系/腎臓/肝臓の障害  
長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器/血液系/肝臓の障害  
長期にわたる、又は反復ばく露による腎臓の障害のおそれ  
水生生物に非常に強い毒性  
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。  
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。  
取扱い後は手などをよく洗うこと。  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
環境への放出を避けること。  
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。  
換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。  
【応急処置】  
飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。  
 皮膚又は髪に付着した場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。  
 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿で休息させること。  
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の連絡をすること。  
 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の診断／手当を受けること。  
 直ちに医師に連絡すること。  
 気分が悪いときは医師に連絡すること。  
 気分が悪いときは、医師の診断／手当を受けること。  
 口をすすぐこと。  
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合、医師の診断／手当を受けること。  
 呼吸に関する症状が出た場合、医師に連絡すること。  
 汚染された衣類をただちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。  
 汚染された衣類を再使用する場合は洗濯をすること。  
 漏出物を回収すること。  
**【保管】**  
 施錠して保管すること。  
 換気のよい場所で、容器を密閉して保管すること。  
**【廃棄】**  
 内容物、容器を国又は都道府県の規則に従って廃棄すること。

### 3. 組成、成分情報

#### 化学物質・混合物の区別

化学名

別名

化学式

化学物質を特定できる一般的な番号

成分及び含有量

官報公示整理番号(化審法、安衛法)

GHS分類に寄与する不純物及び安定化合物

その他

#### 化学品

二クロム酸ナトリウム二水和物

重クロム酸ナトリウム二水和物

$\text{Na}_2\text{Cr}_2\text{O}_7 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$

CAS RN: 7789-12-0

二クロム酸ナトリウム二水和物 100% (純度99%以上のもの)

\* 六価クロムとして34%

(1)-283

該当情報なし。

HSコード: 2841.30

### 4. 応急措置

#### 吸入した場合

呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

呼吸に関する症状が出た場合: 医師に連絡すること。

#### 皮膚に付着した場合

多量の水と石鹼で洗うこと。

汚染された衣類をすべて脱ぐこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

ただちに医師に連絡すること。

#### 眼に入った場合

皮膚刺激または発疹が生じた場合: 医師の診断、手当を受けること。

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ただちに医師に連絡すること。

#### 飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

ただちに医師に連絡すること。

皮膚: 発赤、痛み、皮膚熱傷

眼: 発赤、痛み、かすみ眼、重度の熱傷

経口摂取: 吐き気、嘔吐、腹痛、灼熱感、下痢、ショック/虚脱

#### 応急処置をするものの保護

この物質により喘息の症状を示した者は、以後この物質に接触しないこと。喘息の症状は 2~3 時間経過するまで現れない場合が多く、安静を保たないと悪化する。したがって、安静と経過観察が不可欠である。作業衣を家に持ち帰ってはならない。

漏洩物に触れたときは、直ちに流水で皮膚、眼を最低15分間洗浄する。被災者が有害物質を飲み込んだり吸入したときは、逆流防止のバルブがついたポケットマスクや他の適当な医療用呼吸器を用いて、人口呼吸を行う。

#### 医師に対する特別な注意事項

喘息の症状は、2、3時間経過するまで現れない場合が多く、安静を保たないと悪化する。

|  |  |
|--|--|
| <p>5. 火災時の措置<br/>適切な消火剤<br/>使ってはならない消火剤<br/>特有の危険有害性</p>   | <p>水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類<br/>データなし。<br/>不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。<br/>火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。<br/>危険でなければ火災区域から容器を移動する。<br/>安全に対処できるならば着火源を除去すること。<br/>適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。</p>  |
| <p>6. 漏出時の措置<br/>人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置</p> <p>環境に対する注意事項<br/>封じ込め及び浄化の方法及び機材</p>   | <p>漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。<br/>直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。<br/>関係者以外の立入りを禁止する。<br/>作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。<br/>立ち入る前に、密閉された場所を換気する。<br/>環境中に放出してはならない。<br/>漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。<br/>水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。<br/>プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。</p>   |
| <p>7. 取扱い及び保管上の注意<br/>取扱い<br/>技術的対策<br/>局所排気・全体換気<br/>安全取扱い注意事項</p>  | <p>『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。<br/>『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。<br/>すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。<br/>適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。<br/>適切な呼吸用保護具を着用すること。<br/>適切な個人用保護具を使用すること。<br/>粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。<br/>屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。<br/>換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。<br/>汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。<br/>環境への放出を避けること。<br/>『10. 安定性及び反応性』を参照。<br/>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。<br/>取扱い後はよく手を洗うこと。</p> |
| <p>保管<br/>安全な保管条件</p> <p>安全な容器包装材料</p>   | <p>熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。ー禁煙。<br/>燃焼性<br/>塩基から離しておくこと。<br/>冷所、換気の良い場所で保管すること。<br/>容器を密閉して保管すること。<br/>火源の近くに保管しない。<br/>施錠して保管すること。<br/>ポリプロピレン、ポリエチレン</p>   |
| <p>8. 暴露防止及び保護措置<br/>許容濃度<br/>管理濃度<br/>日本産業衛生学会<br/>ACGIH<br/>設備対策</p> <p>保護具<br/>呼吸器の保護具<br/>手の保護具<br/>目の保護具<br/>皮膚及び身体の保護具</p> | <p>0.05mg/m<sup>3</sup>(クロムとして)<br/>0.05mg/m<sup>3</sup>(クロムとして、6価クロム化合物)<br/>TLV-TWA 0.05mg/m<sup>3</sup>(クロムとして、6価クロム化合物)<br/>ばく露を防止するため、作業場には適切な全体換気装置、局所排気装置を設置すること。<br/>この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。<br/>適切な呼吸器保護具を着用すること。<br/>適切な保護手袋を着用すること。<br/>適切な眼の保護具を着用すること。<br/>適切な保護衣を着用すること。</p>  |
| <p>9. 物理的及び化学的性質<br/>物理状態<br/>色<br/>臭い</p>   | <p>単斜晶系結晶<br/>橙黄色<br/>無臭</p>   |

|                     |  |
|---------------------|--|
| 融点/凝固点              | 356.7°C  |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲       | 約400°C(分解)   |
| 燃焼性                 | 不燃性  |
| 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界   | 不燃性  |
| 引火点                 | 不燃性  |
| 自然発火温度              | 該当情報なし。  |
| 分解温度                | 約400°C(分解)   |
| pH                  | 水溶液は弱酸性  |
| 動粘性率(粘度)            | 該当情報なし。  |
| 溶解度                 | 2355g/L(水、20°C)<br>水に易溶。アルコールに難溶。  |
| n-オクタノール/水分配係数      | 該当情報なし。  |
| 蒸気圧                 | 該当情報なし。  |
| 密度及び/又は相対密度         | 該当情報なし。  |
| 相対ガス密度              | 該当情報なし。  |
| 蒸発速度                | 該当情報なし。  |
| <b>10. 安定性及び反応性</b> |  |
| 反応性、化学的安定性          | 100°Cで結晶水を失い、400°Cで分解する。   |
| 危険有害反応可能性           | 強力な酸化剤であり、燃焼性  |
| 避けるべき条件             | 弱酸である。<br>高温、多湿、直射日光   |
| 混触危険物質              | 燃焼性  |
| 危険有害な分解生成物          | 該当情報なし。  |
| <b>11. 有害性情報</b>    |  |
| 急性毒性                | 経口：ラットのLD50値(OECD TG 401)として、252.4 mg/kg(雄)、181.0 mg/kg(雌)(厚労省既存化学物質毒性データベース(Access on October 2016))との報告に基づき、区分3とした。<br>経皮：ウサギのLD50値として、336 mg/kg(雄)、361 mg/kg(雌)(ATSDR(2012)、CICAD 78(2013))の報告に基づき、区分3とした。  |
| 皮膚腐食性及び皮膚刺激性        | 吸入：(粉じん・ミスト)ラットのLC50値(4時間)として、70 mg/m <sup>3</sup> (雄)、31 mg/m <sup>3</sup> (雌)(ATSDR(2012)、CICAD 78(2013))の2件の報告があり、1件は区分1に、1件は区分2に該当する。有害性の高い区分を採用し、区分1とした。<br>本物質(水和物)に関する情報は得られなかったが、同じく水溶性の本物質の無水物をウサギの皮膚に4時間適用した試験において、皮膚の紅斑、浮腫、壊死が認められたとの報告がある(ATSDR(2012))。また、EU RARには、水溶解度の高い六価のクロム化合物は、一定の条件下で、重篤な皮膚への影響を引き起こすと結論付けている(EU-RAR(2005))。よって、区分1とした。   |
| 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性   | 本物質を含む水溶解度の高い六価のクロム化合物は、一定の条件下で、重篤な皮膚への影響を引き起こすとの報告(EU-RAR(2005))や、眼に対して重篤な損傷を引き起こすとの記載(EU-RAR(2005))に基づき、区分1とした。なお、ウサギを用いた眼一次刺激性試験において、本物質の無水物の水溶液を点眼した結果、ウサギの眼に刺激性は認められなかったとの記載があるが、試験の詳細が不明である(ATSDR(2012))。  |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性       | 呼吸器：日本産業衛生学会許容濃度勧告では、クロム及びクロム化合物は気道感作性第2群に指定されていることから(産衛誌 58(2016))、区分1Bとした。なお、六価クロムを含む化合物を取り扱った作業者に喘息、呼吸困難などの呼吸器感作性を発症した症例が報告されている(ATSDR(2012))。<br>皮膚：日本産業衛生学会許容濃度勧告では、クロム及びクロム化合物は皮膚感作性第1群に指定されていることから(産衛誌 58(2016))、区分1Aとした。なお、六価クロムを含む化合物について、職業的に暴露した作業者に感作性を示唆する皮膚炎が認められており(CICAD 78(2013))、また、モルモットを用いた皮膚感作性試験において陽性の結果が報告されている(ATSDR(2012))。  |
| 生殖細胞変異原性            | In vivoでは、マウスの末梢血赤血球又は骨髓細胞を用いた飲水経口投与小核試験で陰性、陽性の結果、マウスの骨髓細胞を用いた腹腔内投与小核試験で陽性である(NTP DB(Access on October 2016)、ATSDR(2012))。In vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陽性である(NTP DB(Access on October 2016)、厚労省既存化学物質毒性データベース(Access on October 2016)、ATSDR(2012))。本物質に関するin vivo生殖細胞変異原性、in vivo生殖細胞遺伝毒性のデータはないが、水溶性Cr(VI)はin vivo生殖細胞変異原性を有する(EU-RAR(2005))との評価がされている。したがって、水溶性Cr(VI)である本物質にEU-RAR(2005)の評価を適用し、区分1Bとした。 |

発がん性

本物質は六価のクロム化合物に該当し、六価クロム化合物はIARCでグループ1 (IARC 100C (2010)) に、EPA (IRIS (1998))、NTP (NTP RoC (13th, 2014)) でともにK (Known (to be) human carcinogen) に、ACGIHでA1 (ACGIH (7th, 2001)) に、日本産業衛生学会で第1群 (許容濃度の勧告 (2016)) にそれぞれ分類されている。以上より、本項は区分1Aとした。なお、本物質自体のデータは、ヒト、実験動物ともに情報はないが、ラット及びマウスを用いたニクロム酸ナトリウム二水和物の2年間飲水投与による発がん性試験において、ラットでは口腔粘膜及び舌の扁平上皮乳頭腫又は扁平上皮がんの頻度の増加が、マウスでは小腸の腺腫とがんの合計頻度の増加が報告されている (NTP TR546 (2008)、ATSDR (2012)、CICAD 76 (2013))。

生殖毒性

ラットを用いた本物質強制経口投与による反復投与毒性・生殖発生毒性併合試験 (OECD TG 422) において、一般毒性影響 (ヘモグロビンの低値、網状赤血球数の高値、胃粘膜のびらん・潰瘍性変化など) がみられる30 mg/kg/day で妊娠期間の延長がみられたが、その他には親動物、児動物ともに生殖発生影響は認められなかった (厚労省既存化学物質毒性データベース (Access on October 2016))。この報告以外に本物質自体の毒性情報は無い。しかしながら、本物質は六価クロム化合物に該当し、六価のクロム化合物の生殖影響に関する情報が利用可能と考えられる。すなわち、ヒトでは六価クロムへの職業ばく露で精子数及び精子運動能の低下がみられたとの報告、並びに血中クロム濃度と精子の尾の欠損、精子数の減少、精子運動能の減少との間に強い相関がみられ、クロム濃度の増加に伴い精子生存率は減少したとの報告がある (CICAD 78

実験動物ではニクロム酸カリウムを雄マウスに7週間混餌投与した試験で、精子数の減少、精細管の変性、形態異常精子の増加がみられたとの報告がある (CICAD 76 (2013)、ATSDR (2012))。また、ニクロム酸カリウムを雌マウスに20日間飲水投与した2つの試験では、受胎率の低下、黄体数の減少、着床数の減少、着床前胚損失の増加、性周期期間の増加が1件で、成熟卵胞数の減少、卵巣の組織変化 (卵胞の核濃縮、閉鎖卵胞など)、性周期期間の増加が他の1件で報告されている (CICAD 76 (2013)、ATSDR (2012))。同様に、ニクロム酸カリウムを雌ラットに90日間飲水投与した試験でも、体重増加抑制がみられる用量で、性周期の消失がみられている (CICAD 76 (2013)、ATSDR (2012))。一方、ニクロム酸カリウムを妊娠前に雌マウスに飲水投与した試験、及び妊娠マウスに飲水投与した試験では体重増加抑制など母動物毒性が発現するよりも低い用量から、胎児に胎児重量減少、着床後胚損失の増加、胎児死亡率増加、皮下出血斑、短曲尾などの発生毒性がみられた (CICAD 76 (2013)、ATSDR (2012))。

以上、六価クロム化合物はヒトで精子への影響が懸念され、実験動物では精巣及び卵巣の形態及び機能への有害影響、受胎率低下、胚/胎児毒性、外表奇形など広範な生殖発生毒性を示す知見がある。よって、本項は区分1Bとした。なお、EUは本物質をRepr. 1Bに分類している (ECHA C&L Inventory (Access on October 2016))。

特定標的臓器毒性 (単回暴露)

本物質は六価クロム化合物である。ヒトでは、本物質及び他の六価クロム化合物である無水クロム酸 (CAS番号 1333-82-0) の水溶液ミストの急性吸入ばく露により気道の炎症、鼻、胸の痛み、咳、呼吸困難、チアノーゼを生じることが報告されている (EU-RAR (2005))。経口経路では、本物質 (摂取量不明) を誤飲した小児が心肺停止により死亡し、剖検で全身及び肺の浮腫、重度の気管支炎、急性気管支性肺炎、心筋の低酸素性変化、肝臓のうっ血、肝臓、腎尿細管及び消化管の壊死が認められたとの報告が1例ある (ATSDR (2012))。無水クロム酸や他の六価クロム化合物であるニクロム酸カリウム (CAS番号 7778-50-9) でも事故や自殺企図による経口摂取で、呼吸器への影響として肺のうっ血、呼吸不全、心血管系への影響として血圧低下、心拍数低下、肝臓への影響として肝臓肥大、肝細胞壊死、黄疸、ビリルビン増加、肝臓機能関連酵素値の上昇、腎臓への影響として蛋白尿、乏尿、血尿、無尿を呈する急性腎不全の症状、腎臓肥大、浮腫、腎尿細管壊死が認められた複数の例が報告されている (EU-RAR (2005)、ATSDR (2012))。

肝臓、腎臓の障害を示す症状は生存例においても認められた (EU-RAR (2005))。実験動物ではラットを用いた本物質の単回経口投与試験において、区分1相当の180 mg/kgで自発運動低下、緩徐呼吸、軟便、流涙、チアノーゼが認められたとの報告がある (厚労省既存化学物質毒性データベース (Access on October 2016))。またラットで本物質の単回吸入ばく露により、区分1範囲の用量で呼吸困難、上気道の刺激が認められたとの報告がある (CICAD 78 (2013))。

以上の本物質及び他の六価クロム化合物のデータを総合すると、本物質は呼吸器、心血管系、肝臓、腎臓に影響を与えられと考えられる。消化管の所見については、局所刺激の影響として採用しなかった。以上より区分1 (呼吸器、心血管系、肝臓、腎臓) とした。

特定標的臓器毒性(反復暴露)

ヒトについては、クロム酸又はニクロム酸のナトリウム塩又はカリウム塩のダスト、或いは水溶液を介して六価の水溶性クロムに反復吸入ばく露されたヒトで生じる主な毒性影響は呼吸器への影響で、鼻中隔の潰瘍及び穿孔、気道の炎症、肺気腫、肺の線維化、慢性閉塞性気管支肺症などであるとの記述がある(CICAD 78 (2013))。

実験動物については、ラット、マウスを用いた飲水投与による3か月間反復投与毒性試験において、ラットでは区分1相当の62.5 mg/L(評価書中換算値:5 mg/kg/day)以上で小球性低色素性貧血、ALT活性増加、ソルビトール脱水素酵素(SDH)活性増加、胆汁酸増加、膵リンパ節の組織球性細胞浸潤、区分2相当の125 mg/L(評価書中換算値:10 mg/kg/day)以上で十二指腸及び肝臓の組織球性細胞浸潤、1,000 mg/L(評価書中換算値:60 mg/kg/day)で膵リンパ節のリンパ球増生及びリンパ洞の拡張、腺胃の限局性潰瘍、再生性上皮過形成及び扁平上皮化生、骨髄過形成がみられ、マウスでは区分1相当の62.5 mg/L(評価書中換算値:9 mg/kg/day)以上で十二指腸の上皮の過形成、区分2相当の125 mg/L(評価書中換算値:15 mg/kg/day)以上で組織球性細胞浸潤(十二指腸、腸間膜リンパ節)がみられている(NTP TOX72 (2007)、CICAD 78)。ラットを用いた強制経口投与による反復投与毒性・生殖発生毒性併合試験において、区分1相当の6 mg/kg/day(90日換算値:2.5 mg/kg/day(雄)、2.7~3.5 mg/kg/day(雌))で胃のびらん/潰瘍性変化、区分2相当の30 mg/kg/day(90日換算値:12.3 mg/kg/day(雄)、13.7~17.7 mg/kg/day(雌))で平均赤血球ヘモグロビン量・平均赤血球ヘモグロビン濃度の減少、網状赤血球数の増加、ヘモグロビンの減少、腎臓の尿管上皮細胞の壊死がみられている(厚労省既存化学物質毒性データベース(Access on October 2016))。また、ラット、マウスを用いた飲水での2年間反復投与毒性試験においても、区分1~2の用量でラット、マウスで小球性低色素性貧血、肝臓の組織球性細胞浸潤、ラットで肝臓の病変(慢性炎症、脂肪変性、好塩基性巣、明細胞巣)が認められており、マウスで十二指腸・空腸のびまん性上皮過形成、組織球性細胞浸潤(十二指腸、空腸、腸間膜リンパ節、膵リンパ節)が認められている(NTP TR546 (2008)、CICAD 78 (2013))。

以上、呼吸器、消化管、血液系、リンパ系、肝臓、腎臓に影響がみられている。消化管については刺激性に起因したものと考えられ、リンパ系については小腸の病変と関連した二次的所見と考えられることから標的臓器としなかった。

該当情報なし。(分類できない)

誤えん有害性

12. 環境影響情報

生態毒性

短期:(急性) 甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50=0.112mg/L(EU-RAR, 2005)(無水物のデータ)。(GHS分類:区分1)

長期:(慢性) 急性毒性区分1であり、金属化合物であり水中での挙動が不明である。(GHS分類:区分1)

残留性・分解性

該当情報なし。

生体蓄積性

該当情報なし。

土壤中の移動性

該当情報なし。

オゾン層への有害性

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。

14. 輸送上の注意

国連番号

3288

品名(国連輸送名)

その他の毒物(無機物、固体)

国連分類

クラス6.1

容器等級

I

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。

国内規制がある場合の規制情報がある場合の規制情報がある場合の規制情報

陸上輸送

消防法の規定に従う。

海上輸送

船舶安全法の規定に従う。

航空輸送

航空法の規定に従う。

応急措置指針番号

151

15. 適用法令

化学物質管理促進法(PRTR法)

特定第1種指定化学物質(第2条・施行令第1条別表第1及び第4条)[六価クロム化合物]

毒物及び劇物取締法

劇物(第2条・指定令第2条)[重クロム酸塩類及びこれを含有する製剤]

労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物(第57条・施行令第18条)[クロム及びその化合物]

名称等を通知すべき危険物及び有害物(第57条の2・施行令第18条の2)[クロム及びその化合物]

危険性又は有害性を調査すべき危険有害物(第57条の3)[クロム及びその化合物]

消防法  
労働基準法  
  
水質汚濁防止法  
土壌汚染防止法  
大気汚染防止法  
  
船舶安全法  
港則法  
航空法

16. その他の情報  
参考文献

特定化学物質第2類物質・管理第2類物質(施行令別表及び特化則第2条)[重クロム酸及びその塩]  
特別管理物質(施行令別表3の2及び特化則第38条の3)[重クロム酸及びその塩]  
作業環境評価基準(法第65条の2第1項)  
危険物に該当しない。  
疾病化学物質(第75条第2項 施行規則第35条別表第1の2第4号の1)[クロム及びその化合物]  
有害物質(施行令第2条)[六価クロム化合物]  
特定有害物質(施行令第1条)[六価クロム化合物]  
有害大気汚染物質に該当する可能性のある物質・優先取組物質(中央環境審議会の第九次答申)[六価クロム化合物]  
毒物類・毒物(危規則第2条・告示別表1)  
毒物類・毒物(施行規則第12条・告示別表1)  
毒物類・毒物(施行規則第194条・告示別表1)

NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP)  
16615の化学商品(化学工業日報社)  
国際化学物質安全性カード(ICSC)  
職場のあんぜんサイト(厚労省HP)

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。